第５回ＥＳＤ連続セミナー概要報告

奈良教育大学　大西　浩明

◇実施日時　　　　2024年8月27日（火）19時～21時30分

◇方法　　　　　　ZOOMによるオンライン開催

◇参加者数　　　　51名

◇内容　　　　　　単元構想案の相互検討①

【ルーム１】ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

**１）藤岡晃宏先生（奈良市立三碓小学校）　小学校６年　総合的な学習の時間**

**「平和学習～平和のために自分たちができること～」**

　〇実践のねらい：平和学習を通して、戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを知ること。二度と同じ過ちを繰り返さないために活動している人々の思いに触れ、自分も「平和」を作っていく一員であると自覚し、自ら考え行動しようとする気持ちを育てる。

・「戦争」を自分事にするにはどうすればいいのか悩んでいる

・子どもの疑問からスタートしたい

・自分たちと近い年代の人たちの活動＋修学旅行で一緒に回ってくださる語り部さんの想いをメインにしたい

意見交流から

・それぞれの活動の意味を考えてみてはどうか

・他者との関わりを通して、自分の中の気づきを大事にしたい

・自分が子どもの時には、なんとなく戦争ってあかんねんな～っていう認識

・地域によっては平和学習をしていないところもあるのが現状

・各教室で発表すると班によって真剣度・内容・質が違ってくる。ただの知識伝達で終わるのではなく、一緒に考える時間も設けてみてはどうか。

・小学生の時怖かった思い出がある。遠い昔の距離感を感じていた

・9才の子が英語でガイドをしている　関西テレビのニュースランナーを参考にしては

・高校生が原爆体験者の話を聞いて絵をかいて展示している

**２）井上未来先生（松山市立維新中学校）**

**中学3年生　総合的な学習の時間　「愛媛といえばモザンビーク？！モザンビークといえば愛媛！？」**

・昨年の実践をさらに深めたい

・自分には何ができるのか、本当に関わっていこうとする生徒を育みたい

・GT「四国グローバルネットワーク」竹内よしこさん

　　放置自転車を無償提供する活動をする

・あきらめない・自分で思ったことを行動する

・フェアトレードを通して持続可能な社会を考える

・「なぜ、愛媛といえばモザンビークなのか？」を導入に考える

・小学生の時にやってきた活動が今に結びついている

・カプラナを使って、生徒に活用してもらえないか「魚釣りゲーム」

・対等な一人の人間として向き合う気持ち（対等な関係性）

・幼保小中連携校になっているので、何かできるのではないか

・食育の指定校でもある　どんな取り組み？

・知りたい→「広げたい」行動できる人になりたい

意見交流から

・具体的な授業数はどれくらい？

・調べる観点はこちらでしぼるか、自由に調べさせるか

・海外支援に目をもっていくのか地域を見つめる目をもつか

・千葉の高校で「フェアトレードコーヒー」を通して東ティモールの国の支援をしている

・広げる部分はモザンビークに限らなく、自由度があってもいいのでは

・品川区インターナショナルスクールでは、小学校4年生からフェアトレードを学習している

・調べる段階から目的（ゴール）が見えていると、もっと主体的になると考える

・愛媛では、放置自転車だけでなく、衣服の提供もしている

・カプラナを使って幼保小の連携をするとおもしろいかも

**３）加藤茉子先生（品川インターナショナルスクール）**

**小学校5年生　保健「心身の健康と成長」**

　○私たちは何者なのか「人は身体的、感情的、社会的に変化する・成長する」考える

・ウェルビーングノートを毎年作成・活用している

・地域の方との関りの中で関係性を作るにはどうすればいいか悩んでいる

・学校全体でESDに取り組むにはどうすればいいか悩んでいる

意見交流から

・同じ学校内の先生に自信の成長をインタビューする・自分でアポを取ると主体的になりそう

・校内に関わってくれるボランティアさんとの交流　一緒に校区探検しながら説明してもらう

・品川区の小学校との連携　日本の子どもたちとの交流

・東京の学校間はつながりが薄いのが課題

・色んな人を各単元で招いている

・絵本「大きくなるっていうことは」を活用して子どもに、健やかについて考えてもらうのもいいのでは。

【ルーム２】ファシリテーター：中澤静男（奈良教育大学）

**１）高司靖信先生：（天理市立福住小中学校）　中学校３年　数学科「相似な図形」**

　・世界遺産の建物の似ているところに気づき、その理由を考える。「人が造ったものには意味がある」という感覚を養い、身の周りの様々な建造物を捉え直す姿勢をはぐくむ。

意見交流から

・まず数学科の学習として成立している必要がある。その上で「発展的内容」として、ＥＳＤを考えるべきであろう。

・写真を見ただけでは相似であるかどうか判断できない（相似の条件がある）。設計図などを用意する必要があるだろう。

・授業時間が不足すると思われる。擬宝珠（ぎぼし）の観察などは、放課後に設定してはどうか。

・探究の要素を学習活動に明確に位置付ける。生徒が見つけてきた相似な建造物について、自ら説明する時間をとったり、作図する時間を設けたりしてはどうか。

**２）関澤将大先生（東京都豊島区立西巣鴨中学校）**

**中学校１年　総合的な学習の時間「バラロードはなぜ存在し、大切にされているのだろう」**

・生徒にとって当たり前の存在になっているバラロードを見つめ直すことで、クリティカルシンキングを養う。

・設立の経緯：大塚駅周辺は、放置自転車や不法投棄が多くみられる地域であった。2008年に南大塚都電沿線協議会が沿線の整備を進めている途中で、バラの木が100株ほど発見される。25年ほど前に区の緑地計画で植えられたものであることがわかり、「このバラを中心にバラロードをつくろうと」と協議会が取り組んだ。

・協議会会長の小山さんのバラロードに関する講演を聞き、生徒の

　活動意欲を高める。

意見交流から

・現状把握が重要。生徒が足を運び、聞き取り調査などを行う。「バラ見守り隊」だけでなく、市民の　バラロードへの思いを聞き取る。バラの世話にはお金も時間も労働力も必要であるため、区の取り組みとして進められているはず。地方自治の学習内容として社会科公民的分野との連携が可能である。

・市民の声を聞き取ることで、課題も具体的になってくる。具体的に学習を進めることで、行動化が　　促される。

**３）宮﨑博之先生（熊本県立菊池農業高等学校）**

**高校１年　総合的な探究の時間「日本の農業と食文化の在り方」**

・日本の農業のイメージ：稲作、高齢化、後継ぎ問題、３K

・日本の食料自給率　　カロリーベース・38％、生産額ベースだと70％

・日本で作られている農産物は野菜中心なためカロリーが低い

　・和食は健康的

　→　農業高校生として、これからの日本の農業について、自分にできることを具体的に考えさせたい。

意見交流から

・和食の材料は国産の農産物が多い。

・日本の農業は、実は質のいい農産物を生産している。

・具体的な農業経営を考えるために、企業と連携した取り組みがあれば、探究の教材にしたい。

・学習を外とつなげたり、メディアを活用したりすることで、学びに対する生徒の自信も生まれ、それが次の探究的な学習への意欲につながる。

【ルーム３】ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

**１）三上凜矩先生（山形市立第三中学校）**

**中学校１年　音楽科「民謡」**

民謡　最上川舟唄（世界三大舟唄）をテーマに音頭と唄（民謡）の違いを４つの例示から興味のあることを調べる。

これらは山形を代表する祭りや特産品ではないかという思考に至るであろう。

その後、最上川舟唄が世界三大舟唄に選ばれている理由を考える。

　　　・歴史　・歌詞　・メロディーなどが意見として出るであろう。

ここでゲストティーチャーから話を聞けるようにしたい。最上川船下り義経ロマン観光が舟唄を活用しているということで運用したい。

そこから、最上川が大切な運河であったこと、船頭の呼吸を合わせる掛け声がもとになってできたことなどを話していただきたい。

また、NHKからの依頼で渡辺、後藤という作曲者の熱い想いなども、資料として準備している。

音楽的なよさ、伝統の重みなども感じられるようにしたい。

学んだことを振り返りを活動の中に入れて、人々の生活と音楽の密接な関係、熱い想いなどを押さえたい。

行動化としては、オリジナル民謡づくりをしていきたいが、発表の形や人数など、これでいいのだろうか。　　SDGｓ１１，多面的、他者と協力、つながり、多様性、連携性

意見交流から

・行動化としての音楽づくりはおもしろいかも

・音楽科としての授業としては、音やリズムを楽しみながら感性を重要視して、そこにちょっとした動画を見たり、実際の声を聞いたりといった流れがいいのでは？

•掛け声から音楽に派生していく流れを感じられるといいなぁ

•小学校でも民謡には触れている　そういったものを切り口に導入に

•現代の音楽（インスタ・TIKTOKなど）と比べたりするのも導入にはいいかも。さらに発信もそういったSNSの利用も考えられる。

•ほかの地域の民謡にもふれて広げることで、改めて山形の民謡の良さを感じられるのではないか。

**２）菊池甲余子先生（姫路市立水上小学校）**

**特別支援　自立活動「いきいき野菜を作っていこう」**

育てる野菜に愛着を持ってほしいというのが指導側の願いである。

流れとしては、夏野菜を育てる　→　大事なことは何だろう　→　水・日光・栄養・土　→　畑を見に行く　→トマトが成長しすぎて倒れたり、ほかの野菜に日光に当たらなかったり　→　全部の野菜が元気に育つために

伸びすぎたトマトを切ろう　VS　切ったらかわいそう　というジレンマからクリティカルシンキングができるのではないか。

そして、どちらの意見も大切にする方向で、切った枝や葉を腐葉土にしようという流れに持っていく。

五感を大切にして、トマトやその他の作物の枝や葉のにおいを感じたり、感触なども大切にしたい。

虫や汚れることへの拒否感が強い児童もいるので、軍手など配慮してみんなに体感させたい。

できた腐葉土で冬野菜や収穫までが短い作物などを作って、腐葉土の良さを感じさせたい。　→　また来年度の夏野菜へ継続していけるサイクル

相互性、有限性、責任性、クリティカルシンキング、コミュニケーション、他者と協力、進んで参加、生態系の保全、幸福感（達成感、自己肯定感）、ＳＤＧｓ１２，１

意見交流から

•生態系の保全について、野菜を育てた後の土を腐葉土として復活させるといった、畑の土の持続可能性のような意味合いもあると思う

•自分が育てた野菜を大事にしたいという想いを活かしているところが素敵

•腐葉土作って、特別支援の児童なので忘れないうちに、冬野菜やすぐ育つ野菜を育てるのがいい

•今回の夏野菜を作るときに腐葉土を入れていると思うので、それが実は買ってきた腐葉土だという話もできそう。

•先生の支援と児童同士の関わりがよく考えられていると感じた。

•体験・五感を大事にしているところがいい

•特別支援学級だけでなく通常級との交流もできたらいいのではないか。

**３）中川朋美先生（福岡市立平尾小学校）**

**小学校５年　家庭科「持続可能な社会へ　物やお金の使い方」**

SDGsを１学期にカルタで体験しSDGsの自分が気になる番号について調べてまとめる学習をしている

１学期に学習したことをもとに「持続可能な社会のために物やお金を上手に使えているだろうか？」という主発問ですすめていく。

調べ学習　→　買い物体験、ICTを利用したシュミレーション

相談したいこと

•「ひろげる」が上手な買い物やお金の使い方としてカードにまとめていくつもりであるが、買い物シミュレーションから飛躍していないか

•買い物シミュレーションがＩＣＴのみでいいのか？　実物も混ぜてのほうがいいか？

意見交流から

•「ひろげる」の部分で、すごろく作りなどで行動化していくと、違うグループのもので見方や考え方の多様性を感じられたり、下の学年に発信できたりするかもしれない。

•発問で「どのようにものと関わって生活しているのだろう」の「どのように」って児童にとって難しい　先生と児童でズレは生まれないか

•「物やお金を上手に使える」という部分も、何をもって上手なのかといった視点を絞ってあげたほうがいい。

•先生のどんなことを学ばせたいか、感じさせたいかという思いにフォーカスしてすすめていった方がいいのでは？

•１学期に調べたSDGsに関して、考える・気づくといった活動ならおもしろいかもしれない

•具体的な買い物について考えるのはどうか？

【ルーム４】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

**１）臼井達也さん（****NPO法人わかやま環境ネットワーク）**

**高校　総合的な探究の時間「地域活性」**

・地域の活性化，生徒の立場でどう進められるかを考える単元。特に空き家問題について取り組むグループについての単元構想。まずどうしてそうなったのかを，歴史的経緯を調べたり年配の方に尋ねたりしながら理解していく。そのうえで，自分たちに何ができるだろうということを考えていく。空き店舗を有効活用しようとしている人と出会わせ，ほかのチームと共同的にできることを考えるようにする。

・遠方から通っている生徒がどのように自分ごとにしていくのかが悩みどころ。

・卒業後社会人になっていく生徒も多いので，実社会で生きて働く学びとしたい。

意見交流から

〇　昨年度の課題としてはどのようなものがあったのか？

⇒リノベーションまではいかなかった。今年度は，ぜひ実際に手を動かすというところまでやってみたい。

〇　「空き家をどうするか」だけではなく，「このまちをどうするのか」というより大きな視点をもって考えていけたらいいのではないか。地域の中には空き家だけではなく様々な課題がある。そういう課題と結び付けられたらいい。

⇒ほかのテーマを扱うグループもあり，それらと共同的につながっていくことができればよい。

〇　学校以外の団体との共同はどうか。

⇒社会人としての学び，先々まで考えていくことも学校に求められているミッションとしてある。文化祭での発信の場もあるので，外部の講師のもつ専門性と子どもの学びをつないでいくことで，一つの成果が生まれるのではないかと考えている。

〇　歴史的な経緯から空き家を見つめることができるという発想が面白い。出ていく人がいるとすれば，集まるのはどこか。比較してみるのはどうか。

〇　「意外とこうしたらいいんじゃない？」というアイデアが出てくることがある。アイデアが出たときにそれを実現できるかもしれないと思うと動機も高まるので良いと思った。

⇒どんな声掛け，手立てがあれば，動機付けがすすむのだろう？

⇒大人の人と関わるというのが，かなりあるのではないか。授業としてやっているのではなく，ここでやっていることが実際の社会に生きるということがわかれば，リアルな文脈を感じさせることができればいいのではないか。

〇　教員の立場からは，個の取組においてどのような力を身に付ければよいのか，ということが気になっていると思う。学校の先生としての思いをしっかりすり合わせていくことが必要だと思う。

**２）西田有壱先生（生駒市立俵口小学校）****小学校５年　社会科・総合「食料生産」**

・生駒市が遊休地を使って，畑をしていることを知り，これを題材として授業ができないかと考えた。

・また地産地消に取り組んでパン屋さんを営んでいる人もいる。身近なところから考えることができればと思っている。保護者や地域の人，生駒市の取組をインタビューしながら，耕作放棄地の問題に気付かせたり，遊休地を活用したりすることの意味などを考えさせていきたい。

・前半は遊休地活用の話をしているが，地産地消の話になっているので，前半と後半の話が結びついていない。これをどう結び付ければよいかを考えている。

・子供の実態として環境問題について興味はある。しかし，どこか他人事でもあるという様子がある。

意見交流から

〇ハンバーガー一つを輸入の牛肉なのか，国産の牛肉なのか，それが届くまでの距離を地球儀上で測ることで，子どもたちにもわかりやすくマイレージが感じられる。「見える化」していくというのは一つの手立て。

〇香川県では，近くの田んぼで田植えをさせてもらう。自分でポン貸しにして食べた記憶がある。自分で体験するという学びは印象深いのではないか。

〇無償で遊休地を貸し出しているというのは初めて聞いた。なぜ生駒市が無償で貸し出すのか，無償で貸し出す意義を考えさせるといいのではないか。

〇問題解決型の学習として，子どもたち自身が「まずいな」と感じるポイントを作ることが大切だと考えている。地産地消が進められなかったらどんな問題が浮かぶのだろうということを考えていくといいのではないか。

〇社会科の授業として，まずは地産地消に結びつけるとよいと思う。食料自給率も含めて，問題に気付いたうえで，どうすればよいかという問題解決の結果が地産地消につながるように展開していく。地産地消について学んだうえで，フードマイレージ０でやる事例として，遊休地の活用事例を出していくといいのではないか。

〇終末として，遊休地の活用は子どもたちにはできないが，子どもたちなりできることを考えさせたい。例えば，地産地消をやっている人を応援するというやり方がある。より近いところで買おうとするなど，そういう取組は子どもたちにもできる。

⇒実際に応援する方法として「あおぞらマーケット」というものがあることを市役所の方に聞いてきた。

⇒こどもたちがマーケットにでていく，チラシを作成するなどして，マーケットに関わっていくことができれば面白いのではないか。

【ルーム５】ファシリテーター：新宮済（奈良女子高等学校）

**１）阿部友幸先生（山形大学附属特別支援学校）**

**高校　作業学習**

・作業学習：「 各教科等を合わせた指導」の指導形態の一つ

・アビリンピック：障害者が日頃培った技能を互いに競い合うことにより、その職業能力の向上を図るとともに、企業や社会の一般の人々に障害のある方々に対する理解と認識を深めてもらい、その雇用の促進を図ることを目的としている。

・アビリンピックに参加した。→ハートクリーンで構内で身につけた清掃技術を生かして、園児と関わりながら清掃している。

・山形特有の掃除文化が何かないか？→あったけれどどこに位置付けるべきかが難しい。

・何度も同じ場所に訪れることによって互いの認識ができたり、信頼関係が生まれたりしてくる。

意見交流から

・どのタイミングで幸福感を感じさせるか。

 → フィードバックは大事で、感想を書かせながら

・コミュニティセンターの清掃をセンターの人などと協力してできないのか。

 → サークル清掃の機会があるため、地域の人と関わりながらできるといい。

・利他的な行動をすることで、幸福感を高められる。

・ゲストティーチャーと出会わせたり、インパクトのある導入時の発問はないか？

・アビリンピックが強い、子供達から交流して学ぶことはできないか

**２）栗谷正樹先生（大阪市立今川小学校）**

**小学校６年　総合的な学習の時間「新紙幣を起点としたノダフジ」**

・5000 円札の裏面にノダフジが描かれている。

・お札に描かれた花を比較することで、他の地域とも比較できるかもしれない。

・ノダフジがどのように守られたり、失われたりといった持続性に着目する。

・自分だけのノダフジマップを作成し、子供たち同士で共有させる。

意見交流から

・紙幣が身近ではないから、紙幣を身近に感じさせられるような導入にしなければならない。

・6 年生が低学年に伝えるような活動があればいいかも。

・別の方法でノダフジを伝えていけないか。

・ノダフジが、なぜ、新 5 千円札の図柄に採用されたのかを調べたりするなかで、ノダフジに関心を高めていく。ローカルのものが全国に広がっているという普遍性

【ルーム６】ファシリテーター：中村友弥（奈良市立朱雀小学校）

**１）高良直人先生（****沖縄県伊平屋村立伊平屋中学校）**

**中学校　総合的な学習の時間「地域活性」**

見つめる ： 小中連携して郷土愛を育む

村長の講演会 伝統文化学習

豊かな自然、環境に

豊年祭 児童生徒の参加 エイサー 三線

地域から学ぶ「三線教室、エイサー、太鼓」

自分で選ぶ 次回で第６回目

観光業 養殖業が盛ん 稲作が昔から

体験学習 地場産業に目を向ける

調べる： 月に一度 ２７項目 舞台での練習

触れる 　地域への興味関心を育むねらい

深める ： 毎朝のボランティア活動（あいさつ、清掃活動）

てるぼん？　てるしの？　太陽が光輝く意味？

落ち葉などが海へ流れてしまう

月に１回は地域の人も活動

伊平屋村が思う「残したい原風景」

地域学習が原風景に生かされていく

漁業の方にインタビュー

ミニ運動会など地域行事に参加する

広げる ： 発表する

意見交流から

・うちの学校で何ができるのだろうか？

・特色、強みをどのように見つけられるか？

→生徒に聞いてみると新しい発見が

・小中連携も含めて低学年はどのような関わりがありますか？

→地域子ども会 キャンプ、星空観賞など

・バレー部 小学校は離れている

・自発的に行うポイントは？

**２）原田龍ノ助先生（奈良市立朱雀小学校）　　小学校４年　社会科「防災」**

　災害をもっと自分ごととして考えてほしい

風水害が取り上げられている

能登半島地震の時は、観光しているときに

朱雀防災マップの作成者に話を聞く

「なぜ奈良市のハザードマップでは、安全なのに

地域で防災マップ」を作ったのだろうか

具体的な行動

意見交流から

・守る人たちの取り組みをもっと取り上げては？

・社会科と総合的な学習の時間の整理をしよう

・避難所での過ごし方 自分たちにできることを考えてみる

・実際に被災した人の体験談を聞いてみては？